

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【公開番号】特開2009-145727(P2009-145727A)

【公開日】平成21年7月2日(2009.7.2)

【年通号数】公開・登録公報2009-026

【出願番号】特願2007-324433(P2007-324433)

【国際特許分類】

G 0 9 G 5/00 (2006.01)

G 0 6 F 3/153 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

【F I】

G 0 9 G 5/00 5 5 0 D

G 0 6 F 3/153 3 3 0 A

G 0 9 G 5/00 5 1 0 B

G 0 9 G 5/00 5 5 5 D

G 0 3 B 21/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月7日(2010.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ネットワークを介して所定のコンピュータと接続可能な画像表示装置であって、前記所定のコンピュータは、第 1 の画像処理対象データに対応する第 1 の画像表示機能実現用プログラムを第 1 の領域に格納する外部記憶部を有し、

ネットワーク接続用のインタフェースと、

前記第 1 の画像表示機能実現用プログラムの前記第 1 の領域に関する情報を含む外部記憶アクセス情報を記憶した内部記憶部と、

起動時に前記インタフェースを介した前記所定のコンピュータとのネットワーク接続の確認後、前記内部記憶部から取得した前記外部記憶アクセス情報に基づき、前記所定のコンピュータの前記外部記憶部より前記第 1 の画像表示機能実現用プログラムを読み出して実行することにより、前記第 1 の画像処理対象データに対する第 1 の画像表示処理を行い表示用データを得る画像処理部と、

前記表示用データに基づき画像表示を行う表示デバイスと、
を備える画像表示装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載の画像表示装置であって、

前記内部記憶部は、第 2 の画像表示用データに対応する第 2 の画像表示機能実現用プログラムをさらに格納し、

前記画像処理部は、起動時に前記第 1 の画像表示機能実現用プログラムを読み出し不能の場合、前記内部記憶部より読み出した前記第 2 の画像表示機能実現用プログラムを実行して、前記第 2 の画像表示用データに対する第 2 の画像表示処理を行う、
画像表示装置。

【請求項 3】

請求項 1 あるいは請求項 2 記載の画像表示装置であって、

前記インタフェースはネットワーク接続に替えて所定の外部記憶装置と接続可能であり、前記所定の外部記憶装置は第 3 の画像表示用データに対応する第 3 の画像表示機能実現用プログラムを格納し

前記インタフェースが前記所定の外部記憶装置と接続されている場合、前記所定の外部記憶装置より読み出した前記第 3 の画像表示機能実現用プログラムを実行して、前記第 3 の画像表示用データに対する第 3 の画像表示処理を行う、
画像表示装置。

【請求項 4】

請求項 1 ないし請求項 3 のうち、いずれか 1 項に記載の画像表示装置であって、

前記所定のコンピュータの前記外部記憶部は、前記表示用データに相当する外部出力用画像データを外部に出力する画像信号外部出力用プログラムを第 2 の領域に格納し、

前記外部記憶アクセス情報は、前記外部記憶部における前記画像信号外部出力用プログラムを格納した前記第 2 の領域に関する情報をさらに含み、

前記画像処理部は、起動時に前記インタフェースを介した前記所定のコンピュータとのネットワーク接続を確認後、前記第 1 の画像表示処理を行うとともに、前記所定のコンピュータの前記外部記憶部より前記画像信号外部出力用プログラムを読み出して実行することにより、前記外部出力用画像データを外部に出力する、
画像表示装置。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のうち、いずれか 1 項に記載の画像表示装置であって、

圧縮された映像信号を受けてデコードし、デコード映像信号を出力する映像デコード部をさらに備え、

前記画像処理部は、前記デコード映像信号を加味して画像処理を行う、
画像表示装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

さらに、第 1 の画像処理対象用データの生成処理は所定のコンピュータを含む外部装置が行っており、画像表示装置は上記第 1 の画像表示処理のみを実行すれば十分であるため、画像表示装置の処理負荷を増大させることなく高速処理が可能となる効果を奏する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

CPU5 は、フラッシュメモリ 4、プログラム実行時に作業領域等に必要となる RAM 3 及び外部機器とのデータの送受に用いるインターフェース 6 それぞれと 双方向に送信可能に接続されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

VNC ではプロジェクター 9 で表示されているグラフィックス画面のビットマップデー

タである画像データV 9をネットワーク経由でP C 8に送信し、受信側であるP C 8内のグラフィックス表示用バッファに書き込むことができる。その結果、サーバとなるマシンであるプロジェクター9の表示画面をクライアントマシンであるP C 8の画面上に表示すると共に、クライアントマシンのキーボード、マウス等の入力デバイスをサーバとなるマシンの入力デバイスとして用いることができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

このとき、動画ストリームはP C 8上に蓄えられているものとし、P C 8からプロジェクター19への伝送には、上述のN F Sによりストリームの蓄積されたH D D上の領域をC P U 5がリモートマウントして、そこから選択した動画ストリームを読み出してビデオデコーダ10に供給することで容易に動画処理ができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

この方法によれば圧縮された映像信号をP C 8からプロジェクター19に送るので伝送帯域の効率的な利用が可能である。また、プロジェクター19では、動画のデコード処理は専用のビデオデコーダ10によってなされるため、動画処理負荷を大幅に軽減することができる。